学校だより

武庫北の幸

学校通信８・９月号 令和4年8月25日
（学校教育目標）　心豊かで自主性のある子
（８・９月の生活目標）せっけんで手を洗おう
水分をしっかとろう

校長　武市　俊彦

充実した学校生活を

夏休みが終わり、いよいよ２学期です。１年のうちで一番長い学期です。体育的行事・文化的行事があり、自らの力、学級の力、学年の力を伸ばす大きなチャンスとなる学期です。

子どもたちは、２学期に向けてどんな目標を立てているでしょうか。また、保護者の皆様は我が子のどんな面を伸ばすために、どのような作戦を立てておられるのでしょうか。

学校・学級・担任は行事を運営する時にねらいを持ち、ねらいに計画的にせまることができように方法に工夫を加えます。子どもたちにも保護者の皆様にも行事を貫くねらいや方法の工夫は見えないかもしれません。子どもたちの大きな努力もあり、行事を乗り越えた後には、子どもたちの成長があります。「立派になったなあ」「頼りになるなあ」「こんなこともできるようになったの」と我が子の新たな姿に目を細めることもあるかと思います。保護者の皆様と同様に、この子の成長を求めている学校・学年・担任にとっても何よりの喜びです。１年で一番長い２学期。子どもたちの成長を願いつつ、充実した学校生活を送ってほしいと強く思います。感染の拡大はなかなかおさまりませんが、体と心の健康を大切に元気いっぱい過ごしてほしいと思っています。

子どもの育ち　〈いのちの重み〉

８月22日、校内研修として「人権研修」を行いました。

研修の中で「尼崎市子どもの育ち支援条例」について教えていただきました。この条例は、すべての子どもが健やかに育つ社会の実現をめざすという目的で作られています。冊子を見ていくと、子どもの人権を尊重し、子どもの育ちを社会全体で支えるには『子どもの主体性を育む』ことが大切とあり、

●子どもが努力すること
- 他の人を大切にして思いやりの心を持ちましょう
- 社会のルールを守りましょう
- 様々な人との関わりを大切にして自分で考え行動する力を高めましょう

●大人の責務
- 子どもの人格を尊重して子どもの声を聴いて社会的な自立に向けた学びや行動を支えます

と記されています。

神戸新聞には、1997年の「神戸連続児童殺傷事件」が特集ページ（成人未満）に掲載されています。〈いのち〉の重みはどうなってしまったんだ　とこの当時、記事を読んで衝撃を受けたことを覚えています。

また、目を移すと「渋谷母娘死傷」の記事があり、〈自分の母殺す予行練習〉という見出しが大きく書かれています。

子どもの心に何が起きているのでしょう。〈いのちの重み〉・・・〈いのち〉・・・〈生きる〉

子どもの育ちを社会全体で支える　研修で学んだことが色々とよみがえってきます。

いのちを大切に思い、あたたかな思いやりの心を持ち精一杯生きる子でいてほしい。周りの人を自分のことのように大切に思い、人との関わりを大切に、自ら考え行動してほしい。今、本校の教育目標「心豊かで自主性のある子」を改めて心に刻んでいます。

地域の方に言っていただく「未来の宝である子ども」を我々大人で支えていきましょう。

今後ともご理解とご協力のほど宜しくお願い致します。

☆☆☆